

グローバルな感覚を育む機会の創出に向けた アドバイザリーボード

令和8年5月1日（金）

第3回

委員

氏名	所属
秋田 喜代美	学習院大学文学部 教授、東京大学 名誉教授
ウスビ・サコ	東京都公立大学法人 理事（国際担当）
内田 千春	東洋大学福祉社会デザイン学部 教授
荻野 勉	開智国際日本語学校 校長
柴山 真琴	大妻女子大学家政学部 教授
林 礼子	国際資本市場協会 理事
藤田 保	上智大学言語教育研究センター 教授、センター長
モハメド・オマル・アブディン	参天製薬株式会社 基本理念・サステナビリティ本部 基本理念・CSV 推進部 スパシャリスト、東洋大学国際共生社会研究センター 客員研究員

（五十音順、敬称略）

本日のテーマ

① 幼稚園や保育所等における
実地調査の内容

② 学齢期にふさわしい
「国際感覚を育むための取組」

本日のテーマ

① 幼稚園や保育所等における
実地調査の内容

② 学齢期にふさわしい
「国際感覚を育むための取組」

幼稚園や保育所等における実地調査について

目的

園ごとに体験活動を実施し、幼児がどのような体験で、どのような「気づき」を得ることができるかなどを確認していく

体験活動の内容

日本と諸外国の文化に触れ、その違いから『気づき』を得て、グローバルな感覚の芽生えを育む

【取組のポイント】

- 日本の様々な地域の文化や諸外国の文化に触れ、その違いを楽しむ
- 主体的・能動的な体験を通じて国際感覚を培う
- 一過性の体験に留まらず、その後も子供たちが楽しみ、親しみを感じることができる
- 留学生や大学、大使館等の多様な主体との連携など、東京の特色を生かした体験活動の創出を目指す

対象・実施規模等

- 原則3歳以上の幼児を対象とする
- 幼稚園や保育所等の施設類型、私立・公立等の運営主体、区部、多摩、島しょ等の地域のバランスを考慮し、幅広い園(20園程度)で実施する

留意事項

- 実施にあたり保育士や幼稚園教諭等への負担に配慮する
- 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等を踏まえる

幼稚園や保育所等における実地調査について

これまでの議論を踏まえ、取組内容は以下を参考に、園の要望・実情を踏まえて実施

分野	具体例
季節の行事	<ul style="list-style-type: none">● 日本の様々な地域の伝統行事や、諸外国の季節の行事を体験する。
遊び	<ul style="list-style-type: none">● こま回し・鬼ごっこ等の日本の遊びを体験するとともに、諸外国で親しまれている遊びを体験する。
歌・音楽	<ul style="list-style-type: none">● 同じ歌を日本語と他言語で歌う。● 日本と諸外国の伝統的な楽器を使った演奏に触れる。
絵本・演劇	<ul style="list-style-type: none">● 絵本を日本語と他言語でそれぞれ読み聞かせる。● 日本や諸外国で親しまれている物語を題材にした演劇を日本語や他言語で行う。
食文化	<ul style="list-style-type: none">● 日本の様々な地域や諸外国それぞれの食文化に触れる。

本アドバイザリーボードからの助言を随時受けながら実施

テーマ①に関する論点

- 幼児期の幼稚園や保育所等における実地調査について、
取組内容は妥当であるか。

本日のテーマ

① 幼稚園や保育所等における
実地調査の内容

② 学齢期にふさわしい
「国際感覚を育むための取組」

都におけるグローバル人材育成の取組

都内公立学校 における取組例

● 国際体験やグローバル人材の育成に向けた取組を推進

外国語に触れる機会の創出

公立小学校において、英語が堪能なネイティブ人材を活用し、児童が英語によるコミュニケーションを行う機会を確保し、英語を使う意欲の向上と発信力を育成

国際交流の取組支援

交流候補先（海外の学校等）の情報の一元化や、学校からの相談対応等を行う「国際交流コンシェルジュ」で新たにアウトリーチ型支援を行うとともに、公立小・中・高等学校等において、姉妹校交流をはじめとした海外学校間交流等を支援

TOKYO GLOBAL GATEWAY



都教育委員会と(株)TOKYO GLOBAL GATEWAYが提供する、新しいタイプの**体験型英語学習施設**。平日は、小学校・中学校・高等学校・大学・専門学校等の学校単位で利用し、グローバルな世界の体験が可能。

国際交流等に関する子供の声（1 / 3）

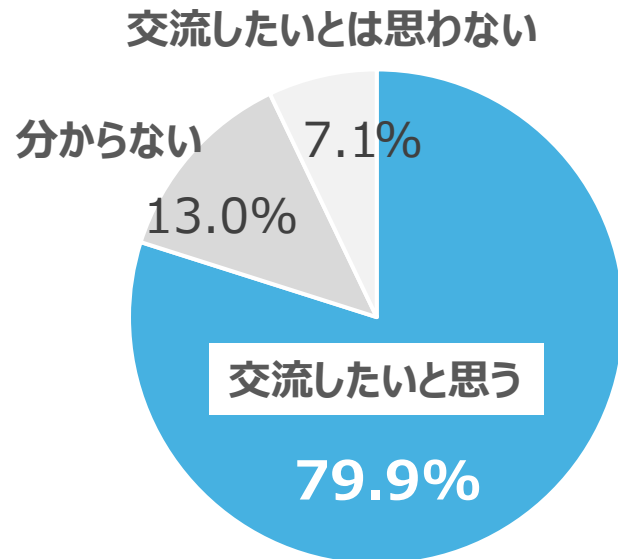
子供の声

- 約8割の子供が海外の子供たちとの交流を望んでいる

海外の子供たちと交流してみたいと思うか

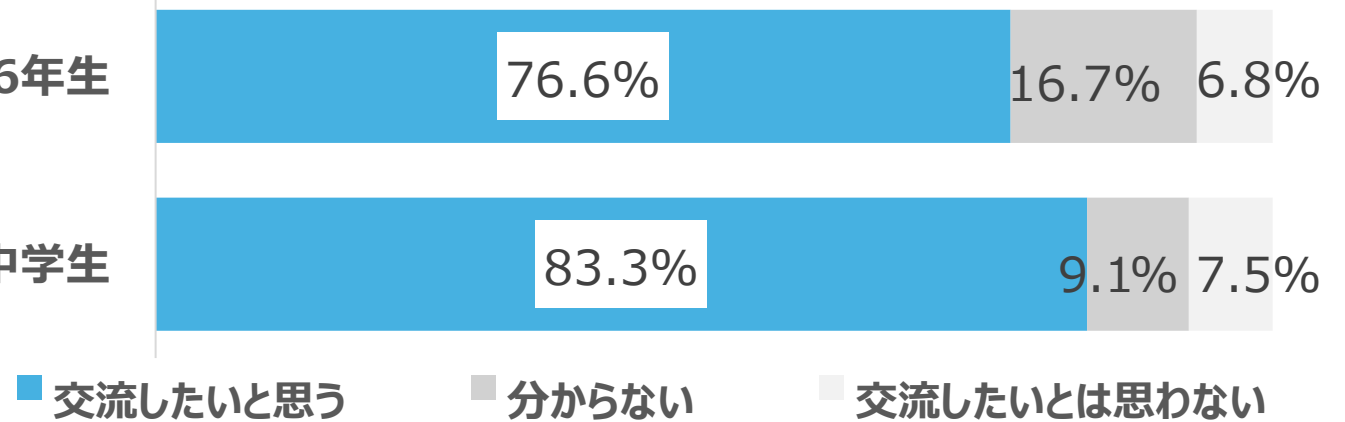
小学4年生～中学3年生

学年別



小学4～6年生

中学生



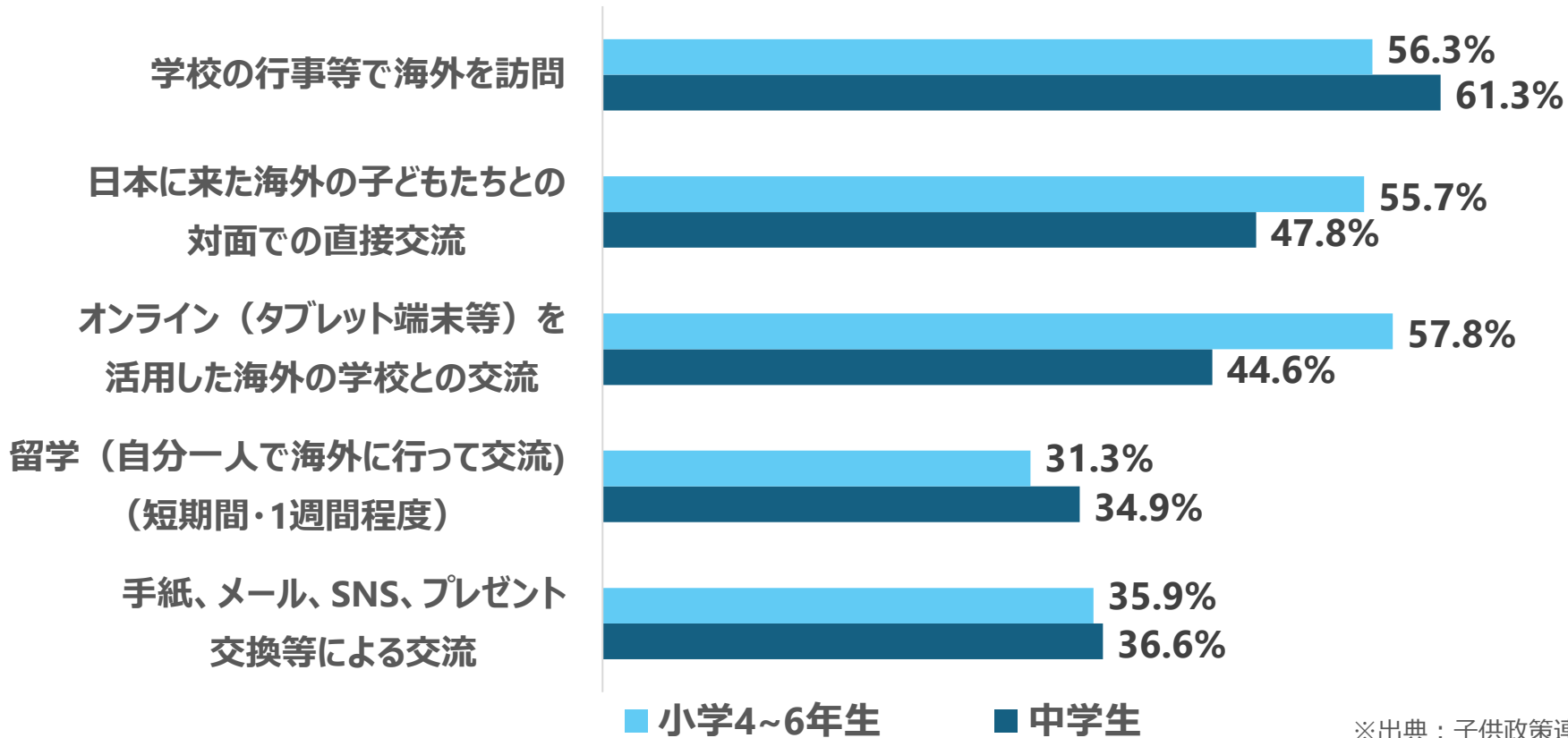
※出典：子供政策連携室「こども都庁モニター（R5）」もとに事務局で作成

国際交流等に関する子供の声（2 / 3）

子供の声

- 子供は様々な手段による交流を望んでいる
- 成長発達段階により、希望する交流手段の傾向に差異が見られる

どのような手段で、海外の学校の子どもたちと交流したいか（複数選択可。上位5つを記載）

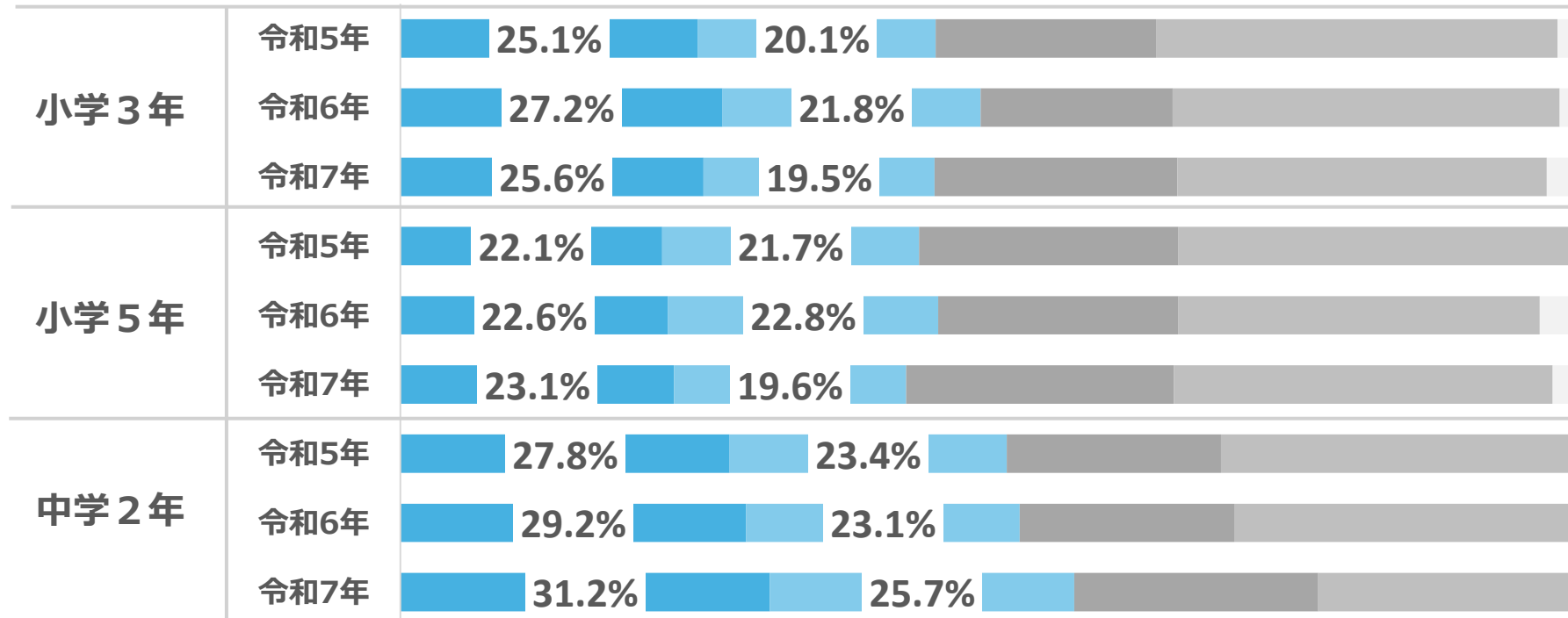


※出典：子供政策連携室「こども都庁モニター（R5）」

子供の声

- 留学や他国で働きたいと思う子供は、半数前後

機会があれば留学や他国で働いてみたいと思う



■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答/不明

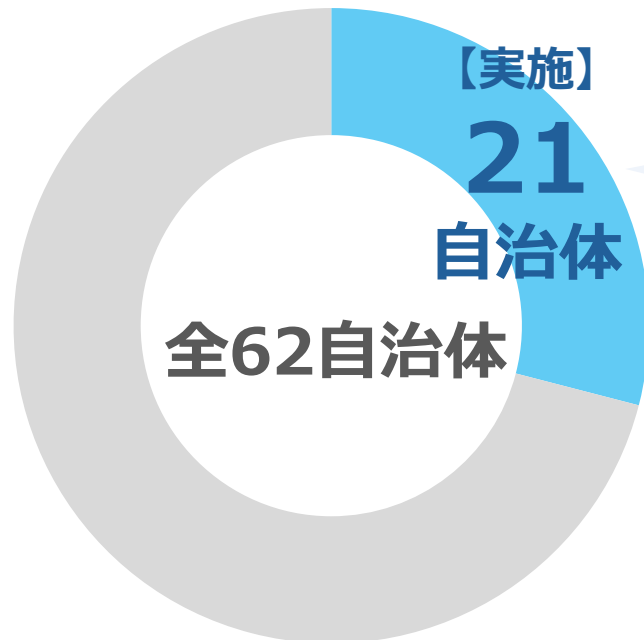
※出典：子供政策連携室「「とうきょう こども アンケート(R5~7)」

区市町村における海外派遣の取組

区市町村の取組

- 区市町村における海外派遣の取組は一部の自治体に留まる

小中学生の海外派遣を実施している自治体



- ・ 各自治体ごとに、小・中学生を数名～数十名、海外へ派遣している事例あり

※出典：東京都政策企画局「令和7年度 東京都の区市町村の国際政策の状況」

学齡期における国際感覚を育む取組

- 学校教育における取組をベースとし、一部の自治体では学校外において独自に多様な体験機会を創出

多様な機会の
創出

(区市町村の取組)

- 一部自治体において、学校外において独自に海外派遣等の取組を実施

グローバルな感覚を
更に育む

(取組例)

- 外国語に触れる機会の創出
- TOKYO GLOBAL GATEWAY 等
- 国際交流の取組支援

学校教育

小・中・高で一貫した英語教育の推進

...

小学生

中学生

...

テーマ②に関する論点

- 幼児期に続く学齢期（小学1年から中学3年）において、国際感覚を育むために、**どのような方向性で取組の充実を図るべきか**
- 学校教育に加えて、**学校外で国際感覚を育む取組を実施することの意義**はどのようなものか